

北海道銀杏会 第28回講演会

日時 2017年7月20日(木) 18時30分～20時15分

場所 ホテルサンルート札幌3階 「宗谷」

講師 北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 研究主任 室岡 瑞恵 様

桑澤新会長体制となって初めての講演会には、北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場の室岡研究主任をお迎えし、「アムール・オホーツクと北海道の水産資源」と題してご講演いただきました。

室岡研究主任は3人の男の子を育てながら、サケ資源と陸および海洋環境の研究に取り組まれています。お子様が赤ん坊のときは夜泣きがひどく、ご苦労されたそうです。

ご講演は、次の内容について、写真やグラフ、データをふんだんに使い大変興味深いものでした。①2004年からメンバーとして研究されたアムール・オホーツクプロジェクト

②さけます・内水面水産試験場の活動内容 ③生物あるいは資源としてのサケ

質疑応答では、多方面からの質問があり、また太公望としての感想も飛び出すなど、大変楽しい講演会となりました。ご講演いただきました室岡研究主任と参加された会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

1. アムール・オホーツクプロジェクト

(1) 「巨大魚付林」仮説を検証する、日本・中国・ロシアの共同研究プロジェクトです。つまり、アムール川流域がオホーツク海の巨大な魚付林となっており、人間活動がその環境に影響を及ぼしているのではないかということをはっきりと明らかにするものです。

(注) 魚付林：岸辺の森から流れ出す栄養分が沿岸の魚を育むことをいう。

(2) 調査対象は広大な地域ですが、衛星データをはじめ多くの事象や数値、それと体力を使い、色々な角度から研究がなされました。

(3) 研究の結果、アムール川流域の湿地で生成された鉄がオホーツク海に流れ出すことで、豊かな海と水産資源を支えていることが明らかになりました。さらに、開墾などの人間活動はその環境に悪影響を及ぼしていることも見えてきました。

2. さけます・内水面水産試験場の活動内容

(1) サケ関係と内水面関係の多岐にわたる研究や業務を行っています。

(注) 内水面：一般的には淡水の湖沼や河川のことをいう。

(2) 具体的研究の一部として、河川湖沼・水域環境、養殖技術や魚病防疫、サケの資源構造解明・来遊予想などの説明がありました。一尾も採取することなく、ししゃもの来遊数を数えているのには驚きです。

3. サケについて

(1) サケはほとんどがふ化放流事業によるもので、→日本のサケ放流は世界的にみても大成功の部類であるといえます。因みに、年間放流数は約10億尾だそうです。

- (2) サケの鱗から年齢や生育環境がわかるそうです。また、耳石標識という方法により、サケの追跡調査が可能となっており、これらを通してふ化放流技術の更なる向上を目指しています。
- (3) また最近では、遺伝的多様性の保存などの観点から、野生のサケを保護する動きが強まっています。

(文責 渡辺知博)